

欠席者連絡メモ

7月30日 土曜日 名前

科目	国語
授業	p. 2. 3 p. 20 回
宿題	p. 4. 5 "表現力"はできたら書いて みてください。 漢字プリント まちがえたものはノートに 練習して覚えてください。
プリント の有無	4

※次回の授業は開始30分前に来て下さい。補習します。

英和があればある

●接続詞とは？

- ・ 自立語で活用がない
- ・ 前後の文や文節、単語を接続する
- ・ 主語、述語、修飾語にはならない

●接続詞の種類

①順接……………前の事柄が、原因や理由になる。

(例) だから・そこで・すると・したがって など

●雨が降ってきた。そこで、体育祭は中止となった。

●熱が出た。だから、ぼくは欠席した。

②逆接……………前のことと逆の結果があとにくる。

(例) しかし・ところが・でも・けれども など

●雨が降ってきた。しかし、体育祭は続けられた。

●わたしは泳げない。だけど、海には行きたい。

③並立・添加……………対等の事柄を並べたり、前の事柄につけ加えたりする。

(例) そして・それから・また・そのうえ など

●雨が降ってきた。しかも、風までふいてきた。

●枕草子まくらそうしおよび徒然草つれづれぐさは三大随筆である。

④説明・補足……………前の事柄をあとで説明する、あるいは、言いかえる。

(例) つまり・すなわち・ただし・なぜなら など

●体言とは、つまり名詞と代名詞のことだ。

⑤対比・選択……………前後の事柄を比べたり、選んだりする。

(例) または・あるいは・もしくは・それとも など

●わたしは、犬またはねこを飼いたい。

⑥転換……………前の事柄から、話題を変える。

(例) ときに・ところで・さて・それでは など

●久しぶりだね。ところで、みんな元気ですか。

説明文の読解

7/30
(+)

基本

p.2
5
p.3

(8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1)

春の訪れを知る

春

イ

ア

イ

B

ア

イ・エ

(順不同)

a

気温

b

地温

c

日長

○解説○

(1) ①段落の「どうやって……だろうか。」に着目し、問題提起されている内容をつかむ。

(2) 直後の「冬のあとに訪れる」に着目する。

(4) ②段落に、「着実に高まってゆく気温が、何にもまして春の予告となることは確かである。」とあるが、③段落では、「けれど、気温というものはあまりたよりになる指標(めじるし)ではない。」と述べたうえで、「地温はずっと信頼度が高い」と述べていることに着目する。

(5) Aは、前で述べている「きわめて敏感」であるという内容に、あとの「きわめて一様な反応をしている」という内容を付け加えているので添加(累加)の接続語があてはまる。

(6) ③・④段落は、春の訪れを知る指標としての地温と地温によって春を知る動物の例、⑤・⑦段落は、春の訪れを知る指標としての日長と日長によって春を知る動物の例となっている。

(7) イ③段落で、「気温というものはあまりたよりになる指標(めじるし)ではない」と述べてはいるが、②段落で「気温が、何にもまして春の予告となることは確か」と述べている。エ「山地や北方」のことは⑤段落にあり、最後の文の「温度だけでなく日長(昼の長さ)も指標として使うものが多い」に着目する。

(8) ②段落、③・④段落、⑤・⑦段落で、それぞれ春の訪れを知る指標として挙げられているものを三つ押さえる。

古文の読解

基本

p.20

①

(1) 父

(2) つどいける

(3) ただ一人にてこれを折れ

(4) ウ

(5) 志を合はする(こと)。

○解説○

① 前の文で「木の枝をたくさん集めて持ってきた」と言い、その枝を一つにして縄で堅く「巻いた」のは、「父」である。

(3) 会話文のあとには原則として、引用を示す「と」があることを覚えておき、文章中に「父……と言ふ」とあるのに着目する。

(4) 前の「力を尽くして折りてみれども」に着目し、これとは逆接の関係の内容になることを読み取る。「かなふ」は、思い通りになる意で、「かなはざりけり」は、思い通りにならなかったという意になることから判断する。

(5) 最後に父が言った言葉に着目する。